様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	授業実践・カリキュラム開発コース／西村　公孝

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教育大学教員としての授業実践

本学の目的は，豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し，学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには，教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が，学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは，教員養成大学の教員として，本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか，これまでの取り組み状況を総括し，具体的に示して欲しい。

1．目標・計画

①授業内容は、高度学校教育実践専攻のカリキュラムにおけるシラバスにそって行う。具体的には、現職派遣の院生と特別教員養成コースの院生に対して、高度な教育の専門性と教育実践力を育成するために、最先端の教育理論と実践知から内容を構成する。
②授業方法は、講義と院生を主体とした課題解決学習の演習を多く取り入れ、未来の国家・社会の形成者を育てる教員としての資質・能力を育成するために対話型のコミュニケーション重視の方法を多く取り入れる。昨年度の授業評価の反省を踏まえて、教員養成特別コースの院生に対しては演習面で工夫する。

2．点検・評価

①前期の授業内容は、高度学校教育実践専攻のカリキュラムにおけるシラバスにそって行った。具体的には、現職派遣の院生と特別教員養成コースの院生に対して、高度な教育の専門性と教育実践力を育成するために、最先端の教育理論と実践知から内容を構成し、昨年度の反省を踏まえて特に特別教員養成コースの学生に配慮した展開を工夫した。
②授業方法は、講義と院生を主体とした課題解決学習の演習を多く取り入れ、未来の国家・社会の形成者を育てる教員としての資質・能力を育成するために対話型のコミュニケーション重視の方法を多く取り入れた。具体的には外部講師として「対話力」の著書を持つ多田孝志氏を講師として研究会と講義を企画し、院生のコミュニケーション能力を育成する課題に取り組んだ。また、昨年度の授業評価の反省を踏まえて、教員養成特別コースの院生に対しては、現職と分けて行うなどの演習面で工夫し、成果をみた。
③後期の授業では、教科・研究主任の力量形成において、講義と院生を主体とした課題解決学習の演習を多く取り入れた。また、フィールドワークを重視し、京都御所南小学校、岡崎市立城南小学校、お茶の水女子大学附属小学校の研究会に大学院生と参加し、研究開発校の優れた授業を参観・分析をし、院生の実践力向上を支援した。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

①学生、院生が主体的に授業に参加できる討論、模擬授業及び課題探究学習等を積極的に取り入れる。
②教職大学院の院生の報告書作成を計画的に指導し、成果をあげる。
③教職大学院の院生のフィールドワークの指導を充実させる。
④教職大学院の院生の研究課題構想作成のためのアセスメント支援を充実させる。
⑤部活動の花道部顧問として日頃の活動と大学祭を河崎先生の協力を得ながら充実させる。

２．点検・評価

①学生、院生が主体的に授業に参加できる討論、模擬授業及び課題探究学習等をほとんどの授業において取り入れた。
②教職大学院の院生、４人に対して報告書作成を計画的に指導し、成果をあげた。
③教職大学院の院生のフィールドワークの指導を充実させるために、京都御所南小学校、岡崎市立城南小学校、お茶の水女子大学附属小学校の研究会に大学院生と参加し、研究開発校の優れた授業を参観・分析をし、院生の実践力向上を支援した。。
④教職大学院の院生の５人の研究課題構想作成のためのアセスメント支援を充実させた。
⑤部活動の花道部顧問として日頃の活動と大学祭を河崎先生の協力を得ながら充実させた。

Ⅱ－２．研究

１．目標・計画

①数年来の課題である学位論文を完成し、審査を申請できるように努力する。
②学会誌に論文を投稿し、学会における発表を目指す。
③愛知県岡崎市の地域カリキュラム開発支援を継続的に行うと共に、共同研究を行っている作手中・作手高校の中高一貫教育を支援する。
④平成24年度の日本生活科・総合的学習教育学会全国大会開催に向けて、大会事務局長として開催運営を計画的に進めるとともに、支部組織の研究を支援する。

２．点検・評価

①数年来の課題である学位論文を完成させ、３月末に連合大学院より学位の授与を受けた。具体的には「社会形成力を育成する社会科・公民科カリキュラムの開発と実践－政治領域における小中高一貫の視点から－」の研究課題の論文をまとめ、２月の公聴会並びに審査会において試問を受け、３月の研究科教授会で合格が承認された。
②日本グローバル教育学会誌に論文を11月に投稿し、日本社会科教育学会における課題研究発表を10月23日行い、社会科教師の教育実践力について学会誌に投稿し、研究ノートとして掲載されることになった。
③愛知県岡崎市の地域カリキュラム開発支援を９月の教育研究大会で継続的に行った。共同研究を行っている作手中・作手高校の中高一貫教育を支援し11月15日に成果を公開し、300人の参加者があった。
④平成24年度の日本生活科・総合的学習教育学会全国大会開催に向けて、大会実行委員長として開催運営を計画的に進めるとともに、支部組織の研究を支援している。具体的には今年度はこれまで8回の実行委員会を行ってきた。

Ⅱ－３．大学運営

１．目標・計画

人文・社会系教育部長として、４つのコースをまとめ部を運営すると共に、部を代表して大学運営に貢献する。そのために、今年度は昨年度に続き若手の准教授や講師の大学運営に関する意見を聞く機会を定期的に開催し、次代の本学を担う中核教員を育てる部の運営の在り方を具体化していく。

２．点検・評価

人文・社会系教育部長として、４つのコースをまとめ部を運営すると共に、部を代表して大学運営に貢献している。また、人事委員会の構成委員として公募と昇任に関して、８つの委員会に入り昇任、採用の人事において貢献した。人文・社会系の若手教員の育成は、定期的な会ではなく個別に意見を聞く会を設けている。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

①附属小学校、中学校の教員と連携し、社会科教育分野の協同研究を進める。また、研究発表会に向けての指導・助言を行う。（附属学校）
②教員免許更新に関する研修を行う。（社会貢献）
③平成24年度開催予定の日本生活科・総合的学習教育学会全国大会の準備委員会を組織し、徳島県内の先生方と協力して本県の研究推進に貢献する。（社会貢献）
④ジャイカ等の派遣による海外からの研修生に対して教職大学院生と共同セミナー等を行い国際交流に貢献する。（国際交流）

2. 点検・評価

①附属小学校、中学校の教員と連携し、社会科教育分野の協同研究を進めてきた。
②教員免許更新に関する研修を8月に行い、本年度も46名の受講があった。（社会貢献）
③平成24年度開催予定の日本生活科・総合的学習教育学会全国大会の実行委員会を組織し、徳島県内の先生方と協力して本県の研究推進に貢献している。（社会貢献）
④ジャイカ等の派遣による海外からの研修生に対して教職大学院生と共同セミナー等を行い国際交流に貢献する計画を11月に実施した。（国際交流）
上記以外に、9月に教職大学院生九名を引率してアメリカのニュージャージー州補習授業校を訪問し院生の授業と補習校の教員との研究会を企画すると共に日本の授業研究会の
現状について講演した。その様子がニューヨーク生活の新聞記事に取り上げられた。また、徳島県の小中キャリア発達に応じた教育支援に関する委員会の長としてカリキュラム開発を支援し、成果物をセンターが刊行した。目白大学の公開講座を担当（平成24年１月）し、教員養成の在り方について講演するとともに授業実践力育成のセミナーを担当した。教育新聞で紹介された。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）

昨年度に引き続き日本教育大学協会の評議員・理事を担当すると共に教育実習部門の四国地区理事を担当し、10月14日に香川大学での教育実習部門の研究集会に参加した。